

東部支部巡検会報告：中伊豆の生い立ちと火山

著者	増島 淳, 斉藤 俊仁
雑誌名	静岡地学
巻	103
ページ	27-29
発行年	2011-06-23
出版者	静岡県地学会
URL	http://doi.org/10.14945/00024727

東部支部巡検会報告

—中伊豆の生い立ちと火山—

増 島 淳・斉 藤 俊 仁

伊豆地域では、県が推進する「伊豆ジオパーク構想」を実現するために、地域内の各市・町は「地域研究会」を組織し、静岡大学の小山真人教授を講師に招き、研修会・現地観察会を開催している。

東部支部も「伊豆ジオパーク構想」を期に、地域の人々に地学にもっと関心を持ってもらえるよう、一般の人が参加しやすい巡検会の内容を工夫し、広報にもつとめている。

今回は、小山真人先生の著書「伊豆の大地の物語」に紹介されている、中伊豆地域のジオポイント候補の5地点を見学地を選んだ(図1)。

残暑が残る2010年10月3日(日)、(株)アジア航測の荒井健一氏を講師に招き、会員7名、一般参加16名で巡検会を実施した。各人に配布された資料には、国土交通省沼津河川国道事務所提供・アジア航測製の赤色立体地図がふんだんに盛り込まれ、非常に新鮮で、参加者の興味を引いた。



図1. 観察地点。電子地図帳Zi11による

1. 伊豆市熊坂、白鳥山の採石場

集合場所の狩野川記念公園から西へ、車で約5分移動すると現地に到着する。稼働中の採石場なので、社員の方に案内していただいた。

現地は全山が立派な柱状節理からなる(図2)。初めての人は圧倒されて息をのんだ。山体は、白浜層群に属するデイサイト質の貫入岩体(火山の根)である。

赤色立体地図では、達磨山の溶岩流が第三紀



図2. 伊豆市熊坂、白鳥山の柱状節理

層にぶつかり流れを止めた様子や、駿河湾に流入する様子が確認でき、地形図とは異なる興味が湧く。

2. 伊豆市上船原，船原火山の断面

船原温泉を過ぎ、天城ドームの北側に船原火山がある。ここは現在でも稼働中のスコリア採取場となっている。社員の方に案内していただいた。

スコリア採取場は、まさにスコリア丘船原火山の断面である(図3)。火山の上に箱根起源のDa-1(約12.5万年前)が堆積する事から、約15万年前に活動したとされる。伊豆東部火山群の中で遠笠山火山と並び最も古く、最も西に位置する火山である。

赤く焼けたスコリアは、所々に火山弾をはさみ層状に堆積し、火口の外側に傾斜するもの、火口に向かい傾斜するものが見られ、火口近くでは溶結している。



図3. 船原火山の断面。

3. 伊豆市天城湯ヶ島，浄蓮の滝と鉢窪山溶岩流

下田街道を南へ進み中伊豆屈指の観光ポイント、浄蓮の滝で昼食とした。浄蓮の滝駐車場一带は、険しい天城山系の中で比較的広い平坦が広がる(図4)。

鉢窪山から流れ出た、流動性に富む溶岩流が平坦地を造っている。浄蓮の滝は、狩野川がこれを切り裂いて造った滝である。ここでは溶岩流断面の立派な柱状節理が観察できた。

4. 伊豆市天城湯ヶ島，鉢窪山

浄蓮の滝から車で数分南に行くと、鉢窪山の麓に着く。底の直径800m、高さ300m弱のプリン形をした綺麗なスコリア丘である。伊豆東部火山群の一つで、活動時期は約1.7万年前とされている。

火山麓を進むと、浸食されたスコリア丘断面を見る事が出来る。途中の道沿いには、約3,200年前に堆積したカワゴ平パミス層が観察できる。

鉢窪山と鉢窪山溶岩流の様子は、赤色立体地図で誰もが納得した。



図4. 鉢窪山・浄蓮の滝の赤色立体地図。

5. 伊豆の国市田原野，テフラの露頭

最後の観察地は，県道19号線を伊東方面に進み「さつきヶ丘公園」の駐車場に車を置き，県道を徒歩で数分登った所にあるテフラの露頭(図5)。

左側にあるスコリアや火山シルト等が堆積した露頭は，約2 km 東側にある長者ヶ原火山(約13.1万年前)から放出されたものである。

正面の露頭には黄色や茶色の軽石層が数枚認められる。露頭が古く土に覆われているが，箱根火山起源のDa-1軽石や大仁黄色第2軽石(約11.8万年前)，愛鷹火山起源の大仁茶色軽石(約10.6万年前)等が確認できた。

午後3時過ぎ駐車場に戻り，事故や怪我も無く，楽しく有意義な一日を過ごす事が出来た事を荒井先生に感謝し，解散した。

参加会員：伊藤，川平，齊藤俊，浜田，藤枝，三田，増島



図5. 伊豆の国市田原野，テフラの露頭と荒井講師。

引用文献

小山真人 (2010)：伊豆の大地の物語. 静岡新聞社，303p.